

キタイ設計株式会社 代表取締役 梶 雅弘氏

interviewer 頭取 高橋 祥二郎 安土支店長 秋野 浩一

豊かな感受性で自然や景観を感じ取り  
「人の営み」につなぐコンサルタント。

「社会の姿」をデザインし、カタチにしていけるのが建設コンサルタント。快適性、利便性の追求だけでなく、自然との共生、文化的景観との調和が求められる。そんな企業哲学を貫いているのが、キタイ設計株式会社だ。



キタイ設計株式会社 代表取締役 梶 雅弘(かじまさひろ)氏  
1961年生まれ。84年、立命館大学文学部地理学科卒業。企画課長、企画部長、取締役企画本部長、専務取締役統轄本部長等を経て、2011年にキタイ設計株式会社代表取締役に就任。12年、滋賀県立大学大学院環境科学研究科修了。技術士(建設部門、農業部門、環境部門、総合技術監理部門)、測量士、APECエンジニア、1級ビオトープ計画管理士。(一社)滋賀県建設コンサルタント協会副会長、(一社)日本補償コンサルタント協会近畿支部幹事、(公社)近江八幡納税協会理事等の公職を務める。15年度農業農村整備事業優良工事表彰(農林水産省関東農政局長表彰)を受ける。

農業土木の測量設計から始まり  
都市計画などの多様な事業に発展

**高橋** 建設コンサルタントとして、国、地方公共団体から道路や橋梁等の社会資本整備やまちづくりを託されているキタイ設計さん。当行でも安土支店や南草津駅前支店南草津パーソナル出張所の設計に携わっていただきました。

**梶** 当社は1951年に創業。初代社長は北居直次郎は滋賀県の農業土木技

術職員として勤めた後、戦後の復興の中で「農は国の基なり」と考え、農業土木部門を柱とする測量設計事務所を開設しました。そこに新しい息吹をもたらしたのが、71年に二代目を継いだ先代社長が北居仙之助です。一級建築士として創造性とエンジニアリングの融合を追求し、ランドデザイン概念を持ち込んで、事業分野を建築や都市計画、造園といった多様な領域に広げました。

**高橋** 2005年にかけてはし対談で先

代社長にご登場いただいた際、土木と建築の融合こそが、キタイ設計さんの求めるところだとおっしゃってました。公園等の設計は土木の領分ですが、建築士が参画することで、景観デザインに統一性が与えられる。そんな磨かれた設計センスや自然・景観に対する見識を生かすことで、業績を伸ばされたようですね。

**梶** 全国各地で、まちづくりのマスタープラン(基本計画)を策定するコンサルタントに当社がなり得たのは、深い洞察に基づく景観設計を追求した先代社長の功績です。さらに、1974年から当時の国

土庁が全国総合開発計画を推進し、農村地域の資源を生かしながら農村地域の生産、生活、自然環境を一体的に整備・保全する市町村農村総合整備計画の策定が進められました。これが農業土木からまちづくりへと領域を広げる契機になりました。それ以降、都市部の発展と秩序ある整備をサポートする都市計画、後継者不足等に悩む農村地域の振興を促す農村計画といった「まちづくり分野」で実績を重ねてきました。また、PFI事業や指定管理事業などの公民連携にも取り組んできました。現在では地方創生に関する総合戦略や人口ビジョンづくりにも参画しています。

最新の地質探査技術を取り入れ  
災害発生リスクを読み解く

**高橋** 2011年に就任された梶社長は、建設・農業・環境等の技術士や、1級ビオトープ計画管理士といった多様な資格を取得され、文明や経済活動といった人間の営みとそれを取り巻く自然の営みをどう共存させるかについて、深い見識をお持ちと伺っています。

**梶** 現在のキタイ設計の事業分野は広範囲ですが、防災分野や自然環境保全、循環型社会づくり分野も、水辺や公園の計画設計も、全てが「自然との共生」とい

うテーマで結びつきます。新名神高速道路の甲南パーキングエリア営業施設などの建築設計でも、周辺の環境・景観との調和を考えずには取り組みません。

**秋野** 例えば防災分野では、どのような点に留意されますか。

**梶** 地球規模の気候変動や大災害では、私たちは自然が秘めた荒ぶる力に直面します。当社は水害や土砂災害を防ぎ、道路・橋梁を地震や土砂崩れ等から守る事業の計画設計を手掛けていますが、重要なのは専門的な調査技術によつて災害発生リスクを的確に読み解くことです。私どもはこの分野での多くの経験から地盤・地下水の診断力には強い自信があります。地下水による地温の変化を測って、地下水の現状を診断する地温探査法もその一つです。京都第二外環状道路では道路設計に先駆けて、この探査法で地下水脈の位置を予測。適切な排水計画につながりました。

**高橋** 高度な調査能力をお持ちだからこそ、計画立案段階からの提案ができるわけですね。

社会資本の損傷を事前診断  
予防保全で社会負担を分散

**高橋** 橋梁や道路、公園の長寿命化、農業水利施設や漁港施設等の補修・機能保



キタイ設計本社から安土山を望む、右から高橋頭取、梶雅弘社長、秋野支店長

## 企業理念

当社は、社員一人ひとりが社会の一員(企業市民)として社会の様々な課題を解決することを目指し、常に心にとどめ、実行していく事項を、企業行動基準として制定しております。

安全・安心、快適で美しい地域社会づくりに貢献できるよう、統合マネジメントシステムを活用し、全社員一丸となって取り組んでまいります。

### 会社概要

## キタイ設計株式会社

- 資本金/9,000万円
- 従業員数/189名
- 事業内容/建設コンサルタント業(農業土木・農村環境、道路、鋼構造及びコンクリート、河川・砂防及び海岸・海洋、上水道及び工業用水、下水道、都市計画及び地方計画、建設環境、造園、廃棄物、土質及び基礎、地質)、測量業、一級建築士事務所、補償コンサルタント業、地質調査業、システム開発、PFI事業、指定管理事業
- 本社/近江八幡市安土町上豊浦1030
- URL/http://www.kitai.jp/

### 沿革

- 1951年 北居測量設計事務所開設
- 1966年 北居設計株式会社設立
- 1982年 姫路事務所が西日本支社に昇格
- 1983年 京都事務所が京都支社に昇格
- 1990年 和田山事務所を開設
- 1996年 大阪事務所が大阪支社に昇格  
山口事務所が山口支社に昇格
- 1998年 ISO9001 認証取得
- 2000年 ISO14001 認証取得
- 2001年 キタイ設計株式会社に社名変更
- 2004年 本社・社屋移転
- 2011年 ISO27001 認証取得
- 2012年 東北支社開設  
プライバシーマーク付与認定  
関東事務所が関東支社に昇格



**地域住民の合意形成は  
ファシリテーターの姿勢**

**高橋** 14年に開園した京都府長岡京市の「恵解山古墳公園」の整備では、CLA(二般社団法人ランドスケープコンサルタンツ協会)から設計部門優秀賞を受賞されたそうですね。



技術支援でベトナム農業にふさわしい改良型水管理モデルの構築を目指す

**梶** 恵解山古墳は全長128mの大きな前方後円墳で国史跡にも指定されています。私どもはなるべく築造時に近い姿での復元を試み、貴重な遺構を保護するため70cmのかさ上げ復元を実施。見学のバリアフリー化や周辺への景観にも配慮し、豪雨時に備えた雨水貯留機能を周濠部にもたせて「古代ロマンと



CLAから設計部門優秀賞を受賞した「恵解山古墳公園」

地域の共存」を追求しました。

**高橋** 史跡といえば、わが国の石垣築城のルーツともされる観音寺城跡の石垣を整備する「観音寺城跡石垣のみえる化プロジェクト」にも地元企業として参画されていますね。当行の安土支店、五個荘支店も一緒に汗を流させていただいています。話題は転じますが、農村計画など地元住民の合意形成が重要であると思いますが、利害が異なる皆さんの意見をまとめるコツはありますか。

**梶** 結論を急がないことですね。私どもの仕事は工期に制約されますが、無理に時間を区切らず、反対意見の方の立場もじっくり理解することが必要です。私たちの役割は、ファシリテーター(促進者)先走らず、状況を理解する豊かな感受性、地域に寄り添うことが求められます。

**高橋** 当行もそうありたいですね。キタイ設計さんの仕事は「状況への豊かな感受性」にあふれていますね。その視点から、滋賀の地方創生には何が大切だと思いますか。

**梶** やはり「農は国の基なり」です。農業は地方経済を支え、地域コミュニティを醸成し、自然環境を守っています。当社の仕事は、国土の保全を通じて水を守り、その水を使う農業を豊かにし、滋賀を、そしてこの国を元気にすることと負っています。

**高橋** 観光やニュービジネスだけでなく、企業が農業に参画することが一番の地方創生だとする論もあります。滋賀の「次代への創生」のためにも、水辺や山、森と人の営みをつなぐ仕事に今後もご精励ください。本日はありがとうございました。



地下水の状況を判断する「地温探査法」の説明を聞く

がかさむので、事前に傷みを診断する予防保全を推奨しています。社会資本は戦後から高度成長期に造られたものが多く、2024年には建設後50年を経過する橋梁の割合は42%を占めるなど老朽化が進んでいます。全てを一気に修理するのは市町の財政負担が大きい。予防保全によって、そのピークの分散を提示することも私どもの役割です。

**高橋** 道路整備や公園、河川改修計画に関わる事例をご紹介ください。

**梶** 道路の実績では、新東名高速道路神奈川県秦野東地区の詳細設計があります。公園で最近の事例は、守山市の「焰魔堂公園(表紙写真)」があります。水辺(ホテル)・桜といった地域の四季を映すゾーンや、近江富士の借景や豊富な地下水など地域の資源を活用しました。河川の整備では、魚道整備や魚道モニタリング調査、オオサンショウウオ等の生物調査を行うなど、生物多様性の保全に係る業務も増えています。

**高橋** 余呉湖での外来魚調査、兵庫県豊岡市での「コウノトリ等を含む生態系調査」など、自然環境保全を目的とした事業も多数手掛けられています。滋賀県内6地域での棚田保全ネットワーク推進業務など、創業者の遺志を継いだ「農は国の基なり」への取り組みも目を引きます。

## 整備と環境保全の両立に マスタープラン段階で配慮

**梶** 滋賀県の棚田保全ネットワークは、湖西や甲賀、湖北にある棚田地域で耕作放棄地の草刈り、獣害防止柵の設置などの活動企画や、保全活動を推進するボランティアの募集などでお手伝いしました。水辺や水田の環境保全に取り組む中で感じるのは、この国の文化がいかに水に依存して成り立ってきたかです。洪水や氾濫など自然の攪乱(かくらん)によって形成された水辺の生態系は、水稲栽培を通じて人の手が加わり、棚田や里山に象徴される「自然と人が相互依存する生態系」が形成されます。私たちが守るべきはこのような「二次的自然」であり、現代の社会システムに適合させながら保全していかなくてはなりません。

**高橋** 1972年からの琵琶湖総合開発では農道整備、かんがい排水、農業集落排水施設などの社会資本づくりに農業土木技術で取り組まれ、滋賀の農業を育む礎を築かれました。治水・利水と環境保全の両立はどのように図ってこられたのですか。

**梶** 環境への影響は実施しないと分からないところも多いのですが、建設コンサルタントとして立案段階から事業に

関わることで多く、整備と環境保全の両立に配慮を尽くしたマスタープランを策定することで、環境への長期的リスクを減らすよう努めてきました。

**高橋** シンクタンク機能を持つキタイ設計さんだからこそ、社会資本づくりと環境・景観との調和をプランニングできるんですね。2015年度に関東農政局長から「農業農村整備事業優良工事等表彰」を受けられたのも、農業土木技術を基礎に、建築技術に精通する広い視野を持つ御社の総合力が評価されたとお聞きしています。

**梶** 受賞案件は農業水利に関わるポンプ場のストックマネジメント業務ですが、農業土木と建築の両方に精通していないと適切に診断できないため、私どもの強みを生かした象徴的な業務だと思っています。

**秋野** 高い技術力を生かされて、3年前からベトナムで農業土木技術の支援もされています。

**梶** MARD(ベトナム農業農村開発省)をはじめ、IWE(水かんがい環境研究所)、京都大学と連携して、ベトナム農業にふさわしい改良型水管理モデルの構築を目指して取り組んでいます。農業者が直接管理するほ場レベルの水管理技術を踏まえて、地球温暖化防止を視野に入れたさまざまな調査を行っています。